

# I 序 章

## 島根県立大学の沿革と建学の精神

### 1 沿 革

島根県立大学は、建学の理念として「諸科学総合と社会における実践」を掲げ、平成12年4月に開学した。「諸科学総合」は、これまでの諸科学の成果を総合的に活用することで、現代社会の多様性に立脚した新たな統合の方法と理念を試みようとし、また「社会における実践」は、諸科学総合による教育研究の成果を地域社会に還元することで、地域社会の新たな発展を目指そうとするものである。

本学はこの建学の理念に相応する「総合政策学部総合政策学科」の1学部1学科の大学である。

平成15年4月には、島根県立大学大学院（北東アジア研究科博士課程）及び開発研究科（修士課程）を開設した。

なお、島根県立大学の母体となった島根県立国際短期大学は（以下「国際短期大学」と言う。）、平成5年4月島根県浜田市野原町に開学した。

国際短期大学は、来るべき21世紀に向けて創造性豊かな人づくりと文化の薫り高い地域づくりの実現を図るため、高等教育機関のなかった県西部に設置された。以来、国際短期大学は、8年間にわたり国際社会を理解し地域貢献できる人材を育成し、地域に開かれた大学として地域振興に貢献した。

開学以来、国際感覚を身につけた699名の人材を育成し、国際短期大学が残した教育・研究活動の実績、海外大学との交流、地域への貢献等を良き財産として島根県立大学に引き継ぎ、平成13年3月31日閉学した。

平成 5年 4月	島根県立国際短期大学開学
平成 7年 8月	県立大学等整備基本構想検討委員会設置
平成 8年 9月	県立四年制大学の整備基本方針策定
平成 8年10月	島根県立大学（仮称）設置準備委員会設置
平成 9年 2月	島根県立大学（仮称）設置基本構想策定
平成10年 3月	島根県立大学（仮称）建設工事着工
平成11年 4月	島根県立大学設置認可申請
平成11年12月	島根県立大学設置認可
平成12年 2月	島根県立大学竣工
平成12年 4月	島根県立大学開学（島根県立国際短期大学学生募集停止）
平成15年 4月	島根県立大学大学院開設 （北東アジア研究科博士課程、開発研究科修士課程）
平成16年 3月	島根県立大学第1回卒業証書授与式举行

## 2 設置の趣旨

島根には、神話の時代から引き継がれてきた地方ならではの厚い人情や清らかな精神が息づいている。長い歴史に培われた文化や四季折々の美しい自然が巧みに織り込まれた「郷土」である。

21世紀の到来を間近にひかえ、世界的にも国内的にも社会が大きく変動しつつある平成5年当時、このしまねの魅力を生かしながらの県勢の一層の発展と県民生活の向上を図るため、島根県では平成6年～平成22年を計画期間とする長期計画を策定し、住みよい島根、住みたい島根を築く「定住条件の確立」、しまねの存在を価値あるものにする「存在意義の構築」を二つの県政運営の理念とした。

とりわけ、社会の変化に対応し地域のニーズに応える教育を推進すること、またよりよき地域社会の創造に向けて主体的に参画できる人材を育成することが必要であるとの観点から、長期計画の中で、特に高等教育機関の拡充整備を重要性の高い施策「戦略プロジェクト」に位置付け、国立・県立の高等教育機関の充実など教育環境の形成に積極的に取り組むこととした。

こうした中、21世紀を担う優秀な人材を育成し、また教育研究を通して地域の発展に貢献するため、島根県は、地域経営の一旦を担うものとして「島根県立大学」を設置し、次の目標の達成を図ることとした。

### (1) 「知的体力」を有する人材の育成

今日の世界は、東西の緊張緩和後の新たな国際秩序形成の模索、地球規模の課題としての環境問題の顕在化、コンピュータや情報通信分野における技術革新、高齢化の進行など、かつて経験したことのない流動的かつ不透明な局面を迎えている。島根県も若年層人口の流出等により人口の減少と高齢化が同時に進行する厳しい状況に直面している。

このような時代の転換期にあって、我々を取り巻く課題はまさに多種多様であり、もはや従来からの官・公・民の役割分担や既存の学問領域の区分をもってこれに対応することは困難となりつつあり、学際的・総合的な知識を備え、主体的に課題を発見・整理し、適切な解決策を提示することができる「知的体力」を有する人材が今こそ求められている。

このような認識から、本学においては、多様化・複雑化した現代社会において、地域問題をはじめとする諸問題の解決に向けて主体的に取り組むことのできる人材を育成していく。

### (2) 地域から国際化を支える知的交流拠点の形成

国際化の進む現代社会にあっては、地域の問題といえどもその地域にのみ視点を置くだけでは適切な解決策の発見は困難であり、日本さらには世界から俯瞰する幅広い視野が不可欠となっている。すなわち、地域自らが国際社会の一員としての自覚を持つこと

により、地域間問題と国際的問題を統合・一体的なものとして認識し、国際関係の中での解決策を探る姿勢が求められている。

このような中、島根県は、特に地理的、歴史的、文化的に深い関係を持つ中国、朝鮮半島、ロシア極東地域など北東アジア地域諸国との相互交流を幅広い分野において拡大することで、北東アジア地域の社会的、経済的な発展へ寄与し、またその発展に力を尽くそうとしている。

本学は、この北東アジア地域との相互交流の中で学術研究面での拠点の1つとなることにより、島根県を含む北東アジア地域が抱える諸問題の解決と発展へ向けた活動の一翼を担っていこうとするものである。

そのためには、継続的にこの地域を支える人材を育成し、人的ネットワークを形成することが不可欠であり、本学では、この地域の政治、経済、言語や文化等に精通した人材を育成するとともに、この地域からの留学生や研究者等の受入れに積極的に取り組むこととした。

### **(3) 地域特性の発掘・活用による地域の発展**

地域の中から積極的に評価できる特性を抽出し、その伸長と活用を図ることは、多くの交流人口を生み出す契機となるとともに、住む人々に誇りをもたらし真の意味での定住につながるものであり、地域が発展していくために欠くことのできないものである。

このような観点から、島根県においても、北東アジア地域諸国との近隣性や古代からの交流を生かした、文化・経済などの多方面にわたる相互交流の推進、他地域の指針となるような高齢化への先駆的な取組み、豊かな自然環境や歴史的文化遺産・伝統芸能等を生かした本県独自の価値の創出など、1つでも多くの魅力を発掘し、十分な活用を図っていくことが必要である。

本学は、地域との交流を重ね、地域に根ざした教育研究活動を行うことにより、地域の魅力の再発見に努めていく。また、それを活用することにより地域の発展を支えていくこととした。